第40号
2023.11
安心のオンライン医療通訳

medi-way 医療通訳だより

日本とちょっと違うよ－通訳者よもやま話－　Vol.16　ベトナム語担当　バックさん

ベトナム人から「食べ物で何に気を付けなければならないか」と聞かれたことはないでしょうか。ベトナムは野菜や果物の種類が豊富で、薬で扱うようなドクダミやウコンなどが日常の料理にもよく出てきます。そういった背景から、地方や家庭によって差はありますが、代々口承による食材の組み合わせや体調を考慮した食事制限の知恵は今でも大事にされています。

例えば、よく耳にするのは、「切り傷がある時にモチ米を食べると化膿しやすく、治りが悪い」や、「妊娠初期に青パパイヤを食べると子宮収縮が強くなり、流産しやすい」などです。このように食べ物に注意する習慣が根付いているため、いざ妊娠や病気になると何を食べたらよいのか気にする人が多いのです。

もうひとつ食習慣にまつわる話としてよく聞くのが、日本では虫下し剤が手に入りにくいという悩みです。ベトナムでは川の水で野菜を栽培する所もあり、料理に生の野菜や川の魚、動物の血・ホルモンなどをよく使うので、寄生虫による健康被害が今だに多く報告されています。そこで、定期的に虫下しが必要という考えが広まり、街以外では医療機関が少ないので、処方箋がなくても薬局で簡単に手に入る虫下し剤を飲む習慣があります。一方、日本では虫下し剤は薬局で買うどころか、まず寄生虫検査で陽性が出ない限り薬の処方はしてもらえません。薬を手に入れるのに苦労するので悩むベトナム人が多いようです。

ベトナムでは市販薬として
購入できる虫下し剤

アドバイザー紹介
～英語～

私はオーストラリアのメルボルン出身です。中学生の時、日本人の親友ができて、日本の文化に興味を持ちました。高校生の頃には日本語が好きになり、大学では日本語を専攻しました。その後、大学院でビジネスやコミュニティ通訳を学び、実務経験も積みました。東京の国立大学で医療通訳を指導することになり、学びの多い医療通訳が大好きになりました。ビジネス通訳と違って、医療通訳の場合、症例がそれぞれ異なり、患者さんのプライベートな情報（病歴など）を聞いたり、命に関わる場合もあるため、共感や責任感を感じることが多いからです。

新しい治療方法や医療技術がどんどん進歩していますので、普段から医療ニュースや医学学会の発表、研究論文をなるべく読むようにしています。また、医療従事者向けの外国人診療のセミナーにも参加しています。アドバイザーとして東和エンジニアリングの勉強会で皆様とご一緒しますが、内容が豊富でレベルも高く、感心しています。

ジュリア・クネゼヴィッチ

今月のトピックス

「花にまつわる話」

スペイン語通訳者からのお話ですが、11月1日と2日はメキシコでは“死者の日”といって、日本のお盆のように亡くなった家族を偲んでお墓参りに行ったり、特別な祭壇を家に飾ったりするそうです。そんな時になくてはならないのがマリーゴールドの花。原産地は中南米ですが、期間中は国中がマリーゴールドのオレンジ色に染まります。この花が“死者の日”に飾られるようになったのは、メキシコにアステカ帝国があったころの悲恋の伝説が由来だそうです。マリーゴールドのあの鮮やかな色は、亡くなった恋人に対する熱い思いを表しているというのが、いかにも情熱の国らしいエピソードですよね。

情熱の国と言えば、ペルー出身の通訳者は日本に来て、男性が花をプレゼントされているのを見てビックリしたそうです。日本では送別会などでスーツ姿の男性に大きな花束を贈る光景を見ますよね。でも彼女からすると、花は男性から女性にプレゼントするもので、男性が花束を受け取る姿は「えーっ？！」だったそうです。

また、先日、フランスの友人が久しぶりに来日した際、彼から“再会を祝して！”の気持ちがこもったブーケをプレゼントされたところ…お供えのための仏花でした。確かに綺麗ではあったのですが😣

花ひとつでもいろいろなエピソードが通訳センター内で飛び交っています。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015　大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail:tic@towaeng.co.jp